

質問順位	5	質問者	寄谷 猛 男 議員		
件名	項目	要 旨		メ	モ
1. 子育て支援	1. 放課後児童クラブ(学童クラブ)について	1. 学童クラブが市内6か所で開設されている。地区により利用頻度等に違いはあるのか。利用申し込み状況、待機児童数、児童厚生員数等の実態について伺う。			
		2. 児童厚生員の員数確保はできているのか。また児童厚生員の勤務時間は子どもたちの利用時間帯とほぼ重なり、活動時間中は子どもたちから目を離せないと思われるが、運営に関わる打合せなど必要なミーティングを行う時間は確保されているのか。いろいろな子どもたちが大勢集まりさまざまな問題が発生しても不思議ではないと思われる。子どもたちの安全・安心確保のために厚生員が打合せを行う時間をしっかり確保すべきと考えるが見解を伺う。			
		3. 東地区、北地区、花月地区は登録人数が多いが、これらの地区の児童館は児童1人につき1.65㎡以上のスペースを確保できるのか。子どもたちが安全・安心に、そして伸び伸びと過ごせるように使用施設を検討すべき時期に来ているのではないか見解を伺う。			
	2. 保育士の確保について	1. 幼児保育分野は働き手不足の状態が続き、國學院大學北海道短期大学部の幼児保育・児童教育学科の卒業生は高い就職率を維持している。しかし、同学科は学生の入学定員割れが続いている(幼児・児童教育学科定員75人：今年度47人、昨年度57人)。深川にある拓殖大学北海道短期大学保育学科も同じ傾向にあり(定員80人に対し今年度39人、昨年度68人、一昨年度55人)充足率は63%である。そのため、いずれの大学も応募者を増やす取り組みに力を入れている。しかし、幼児保育分野への志願者が減っているのは保育士の勤務条件、勤務状態に起因する部分もあると思われる。滝川市としては保育士の労働条件の改善、働きやすい環境づくりに力を入れることが幼児保育分野への志願者を増やす支援策になると思われるが考えを伺う。			

質問順位	5	質問者	寄谷猛男議員	件名	項目	要旨	メモ
				2. 大学連携事業	1. 修学奨励金制度の運用と課題について	<p>1. 就学機会の拡大と併せて地域人材の定着などを指すため、修学奨励金として1,300万円の予算を計上している。</p> <p>① 事業の進捗状況とその評価と課題について伺う。</p> <p>② 修学奨励金制度の市内外高校への周知活動について伺う。</p> <p>③ また、奨励金受給者が地元就職するのはうれしい限りだが、在学中にイベントやボランティア活動に参加してもらうなど滝川に関心を深めてもらう機会をさまざまつくるのが将来的な地元への就職、地元応援につながるのではないかと考えを伺う。</p>	
				3. 市立病院	1. 看護師の確保について	<p>1. 市立病院の人材確保が課題のひとつになっている。高等看護学院の平成31年卒業生25人中、市内就職者は16人である。市立病院の看護師の必要数を維持していくために滝川高等看護学院の学生定員数を増やす考えはないのか伺う。</p>	
					2. 修学資金貸付制度等について	<p>1. 砂川市立病院附属看護専門学校、深川市立高等看護学院には修学資金貸付制度があり、一定年数それぞれの病院で勤務した場合、償還が免除される制度がある。滝川市でもかつてあったが廃止された経緯がある。看護師不足を補うために有料職業紹介を利用する場合、その成功報酬は決して安価とは言えない。高看志願者数の確保、市立病院就職後の定着促進を図るために修学資金貸付制度の復活、拡充を図ることも考えられるが、それについての見解を伺う。</p>	

質問順位	5	質問者	寄谷猛男議員		
件名		項目	要旨	メ	モ
			2. 今年は滝川西高校から滝川市を除く道内の高等看護学校へ22人が進学している。他地域へ進学した学生を対象とする奨学金制度や就職勧誘などで滝川市立病院への就職を促すことについての考えを伺う。		
4. 公営住宅		1. 滝の川団地の維持管理について	1. 滝の川団地の平屋建ておよび二階建て住宅は、昭和53年以前に建造されたものであり、平屋建てについては30年、二階建てについては45年と定められている耐用年数に達し、あるいは達しようとしている。しかし、10年間は需要があるため当面は用途廃止や建替えをすることなく修繕しながら維持管理していくと聞いている。 滝川市公営住宅等長寿命化計画（第二期）において、令和10年度以降、用途廃止を想定しているとのことだが、この住宅は需要もあることから適切な維持管理をしながら、引き続き市営住宅としての役割を担うべきと思うが見解を伺う。		
			2. 滝の川団地では、雪おろしの不十分さが原因で、屋根の損傷が発生し、入居者に負担を求められるケースが発生していると聞いています。この団地では、65歳以上の高齢者のいる世帯が半数近くあり、1人ないし2人世帯が多く、雪おろしは大きな負担となっている。高齢となるに従い自分でおろすのは勿論のこと、業者に依頼するという管理自体が難しくなる恐れがある。そこで、市が支援する仕組みを早々につくる必要があると思うが見解を伺う。		